ニュース＆トピックス
No.2025－80
（2025.9.25）

信金中央金庫 地域・中小企業研究所
信用金庫統計担当：西　俊樹
０３－５２０２－７６７２
s1000790@FacetoFace.ne.jp

信用金庫のＯＨＲ（コア業務粗利益ベース）

－信用金庫のＯＨＲは 2018 年度以降７年連続低下－

ポイント

- 全国 254 金庫におけるＯＨＲ（コア業務粗利益ベース）の推移をみると、2018 年度以降は低下傾向にあり、2024 年度は前期比 1.23 ポイント低下の 70.72％となった。
- 業態別では、信用金庫のＯＨＲは、低下傾向にあるものの、都市銀行、地方銀行を上回り推移している。また、2021 年度以降は第二地方銀行をやや上回り推移している。
- 信用金庫別では、70～80％の信用金庫数が最多で推移している。一方、60％以下の信用金庫数も増加するなど、全体的に低下傾向にあることが窺える。

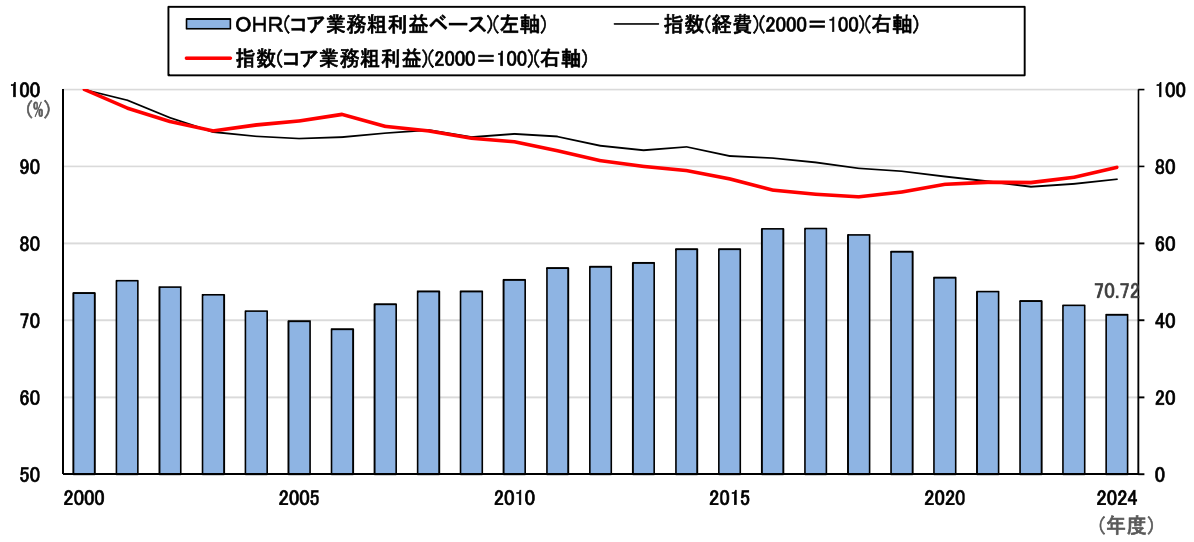
１．ＯＨＲの状況

経費効率をみる指標としてＯＨＲ（経費／業務粗利益）を確認する。本稿では、信用金庫の本業部分での収益性をあらわすコア業務粗利益[1]ベースのＯＨＲを取り上げる。

全国 254 金庫における 2000 年度以降のＯＨＲの推移をみると、2018 年度以降は低下傾向にある。足元の 2024 年度は前期比 1.23 ポイント低下の 70.72％となり、2000 年度以降で３番目に低い比率となっている**（図表１）**。

経費額およびコア業務粗利益について 2000 年度を 100 として指数化すると、ともに低下傾向にあるが、足元では僅かに経費額減少の影響の方が大きく、ＯＨＲの低下に寄与している。

（図表1）OHR の状況



（備考） 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

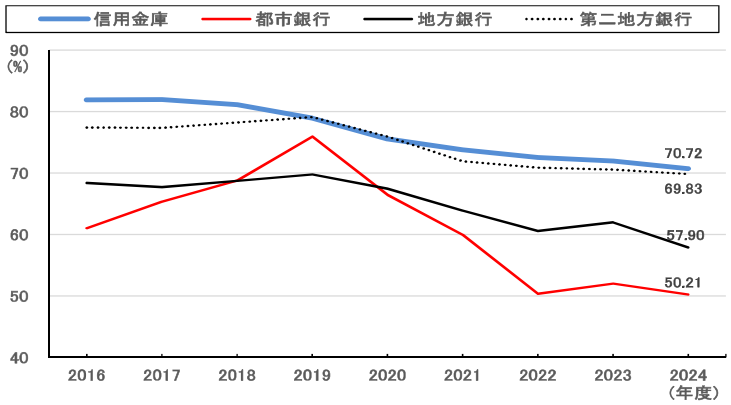
[1] コア業務粗利益＝業務粗利益－債券５勘定尻（(国債等債券売却益＋国債等債券償還益)－(国債等債券売却損＋国債等債券償還損＋国債等債券償却)）

２．他業態との比較

次に他業態と比較するため、2016 年度以降のＯＨＲの推移を示す（**図表２**）。

信用金庫のＯＨＲは、低下傾向にあるものの、都市銀行、地方銀行を上回り推移している。また、第二地方銀行を一時期下回ることもあったが、2021 年度以降はやや上回って推移している。

（図表2）他業態との比較



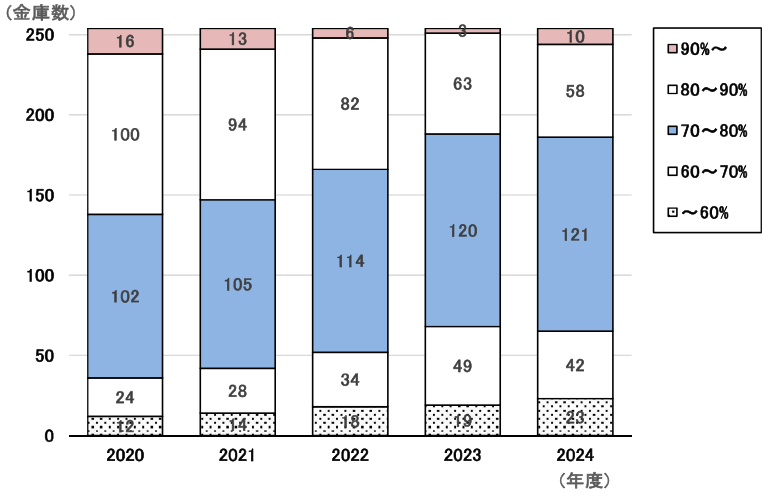
（備考）1. 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成
2. 他業態は全国銀行協会「全国銀行財務諸表分析」より作成

３．信用金庫別の状況

次に信用金庫別に、最近５年間のＯＨＲの推移を示す（**図表３**）。

70%以上～80%未満の信用金庫数が最多であるが、60%以下の信用金庫数も増加するなど、全体的に低下傾向にあることが窺える。また、ＯＨＲを２期間（2020 年度と 2024 年度）で比較したところ、上昇 67 金庫、低下 187 金庫と、低下金庫が多くなっている。

（図表3）信用金庫別の状況



（備考）信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

経費効率をみる指標としては、預金量との対比をみる経費率（経費／(預金積金＋譲渡性預金)）があるが、ＯＨＲは、業務粗利益を稼ぐためにどの程度の経費をかけたかを示す指標であり、比率が低いほど経費効率が高いことを示している。

本稿では、全国信用金庫のＯＨＲはこれまで低下傾向にあったが、コア業務粗利益の増加よりも経費額減少による影響の方が大きいことが確認できた。一方、信用金庫のＯＨＲは、他業態に比べて高い比率で推移している。

最近５年間では、コア業務粗利益は増加傾向にあるが、2023 年度以降は経費額も増加に転じている。このような中、さらなるＯＨＲの低下を図るためには、収益性の向上が求められるだろう。　以　上

※信用金庫業界の各種データは、信金中央金庫 地域・中小企業研究所ホームページの「信用金庫統計」（https://www.scbri.jp/publication/toukei/）に掲載されています。併せて、ご活用ください。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがいまして、投資・施策実施等についてはご自身の判断でお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。